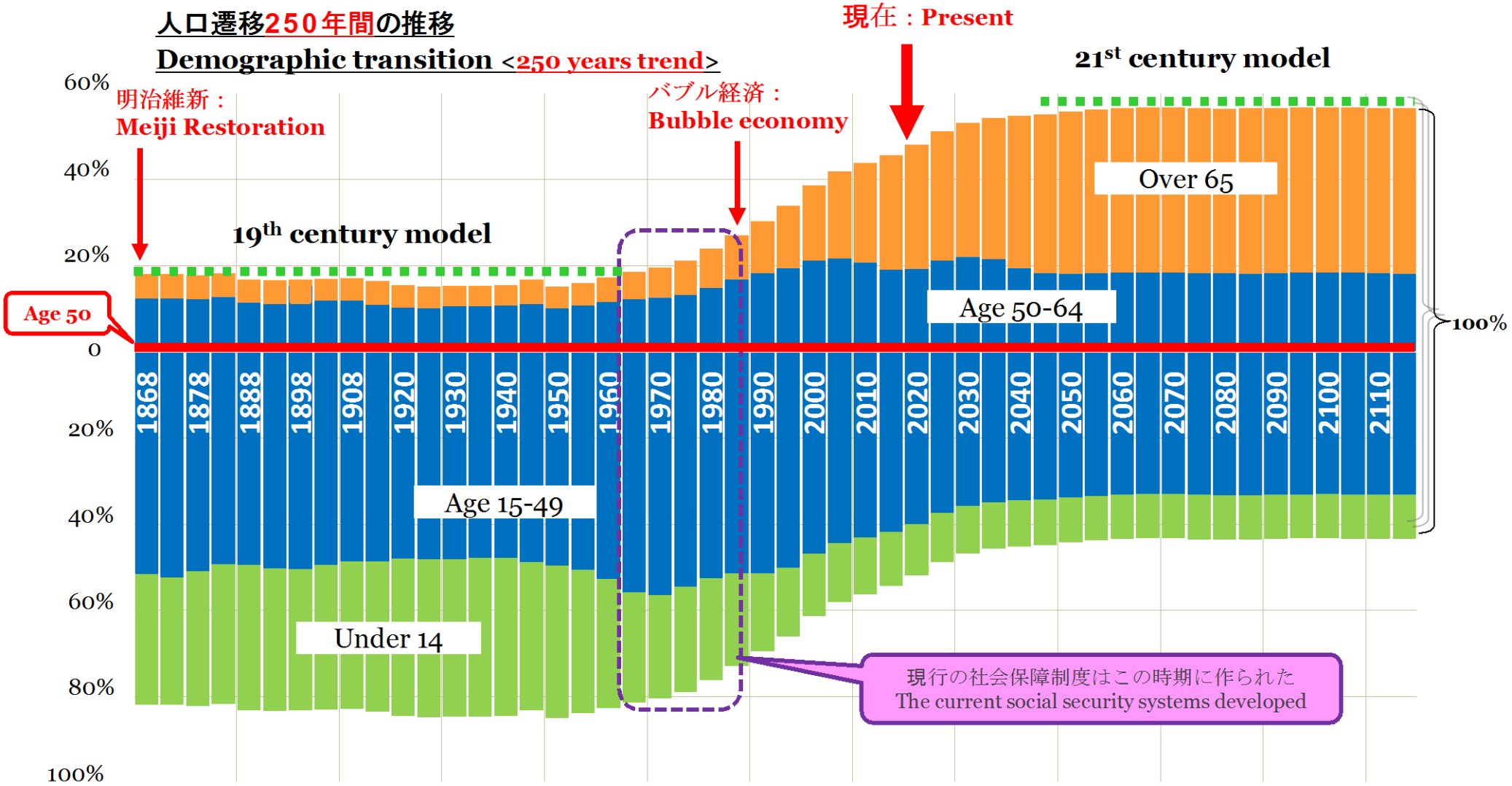
横浜市社会教育委員会議第1回会議資料（牧野）

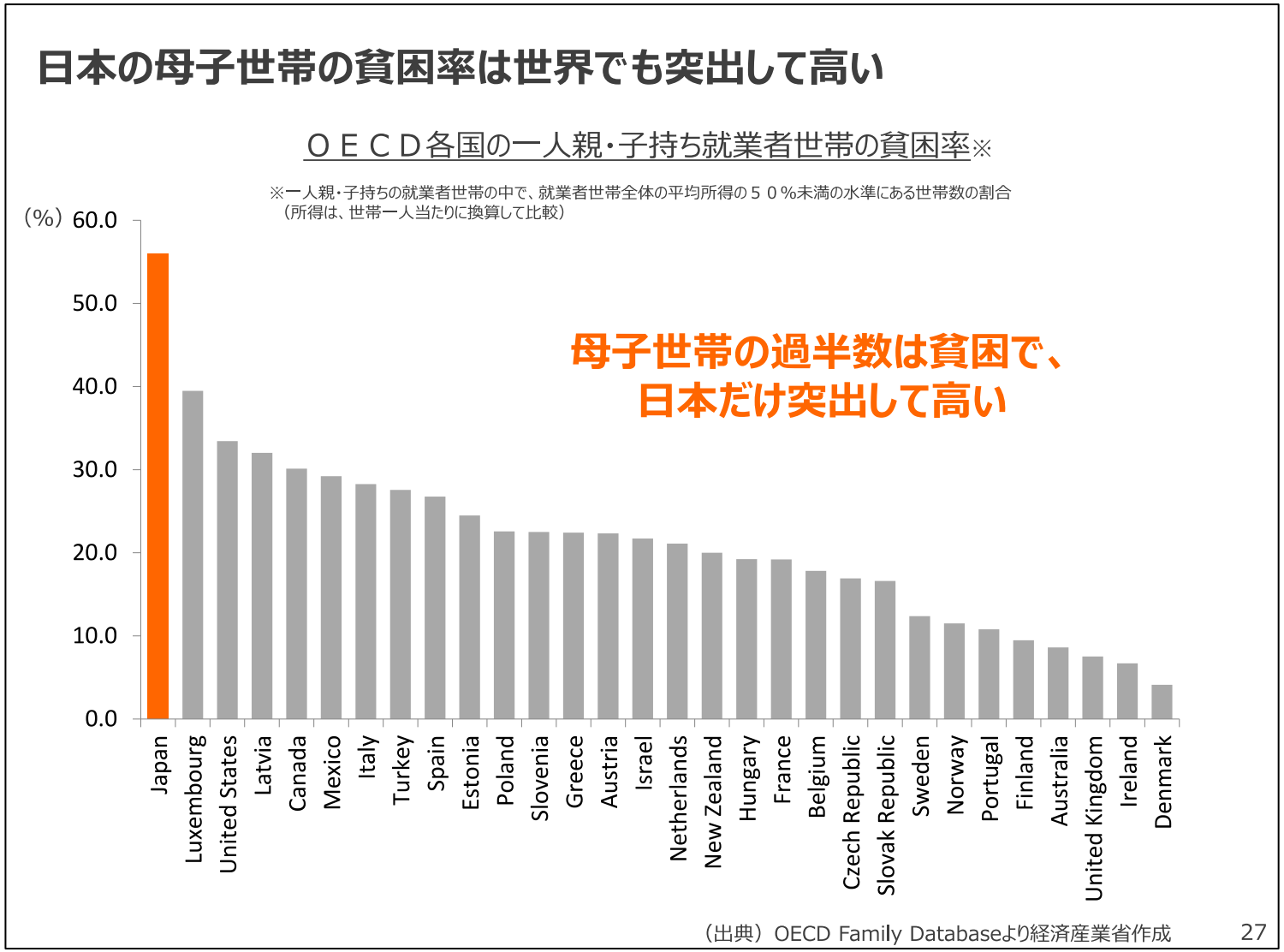
人口構造の遷移　Japan's demographic structure & transition

- There has been a **major shift in the population structure** from the 19th to the 21st century.
- It will be **impossible** to maintain the **social security systems** established in 1960-80s.



Source: Sensus, Okazaki estimate, National Institute of Population and Social Security Research 2017 estimate

子どもの貧困

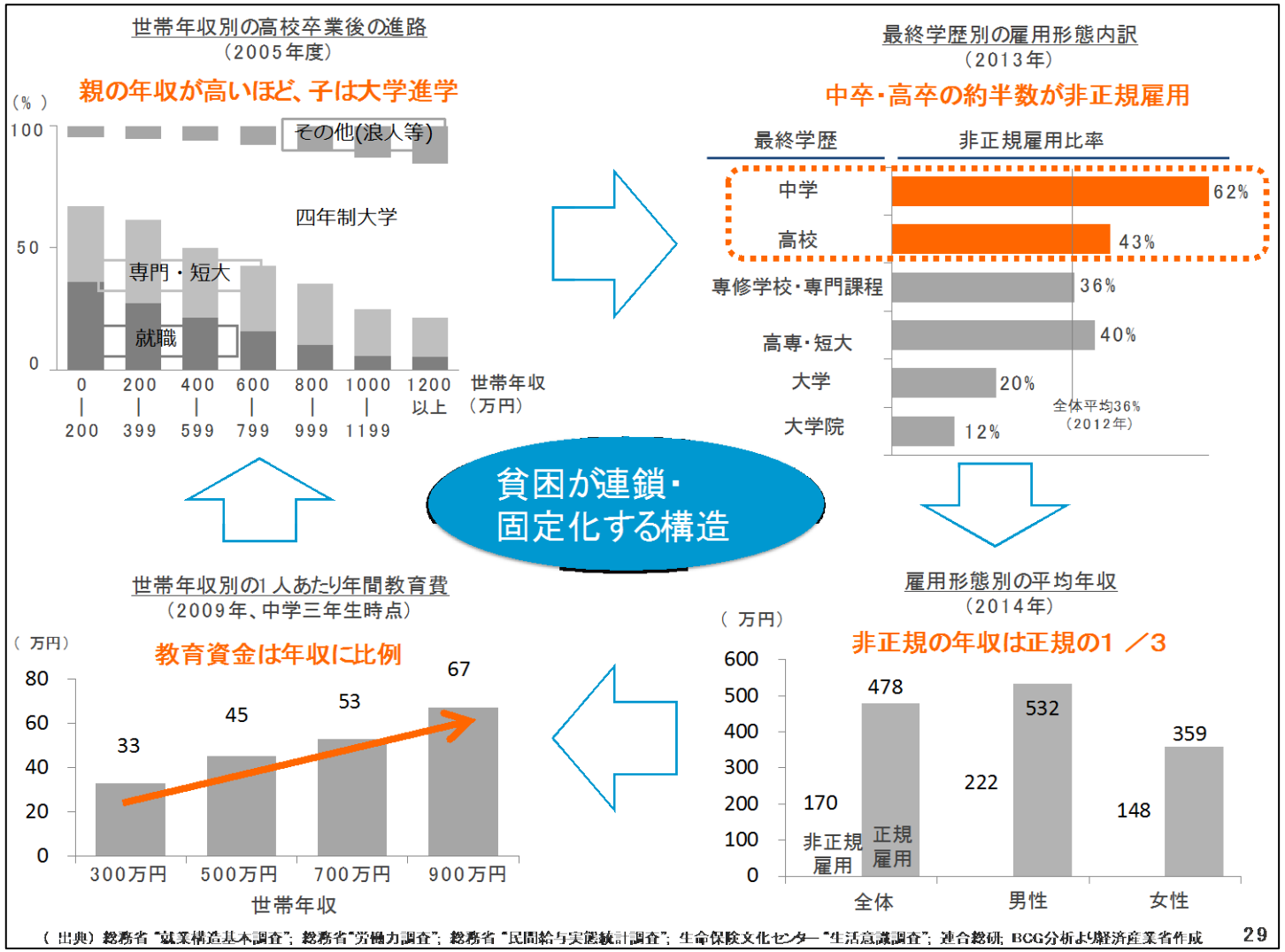


子どもの
相対的貧困率：17%
ひとり親家庭：57%

「子ども食堂」
2300カ所

http://www.meti.go.jp/committee/summary/eic0009/pdf/020_02_00.pdf

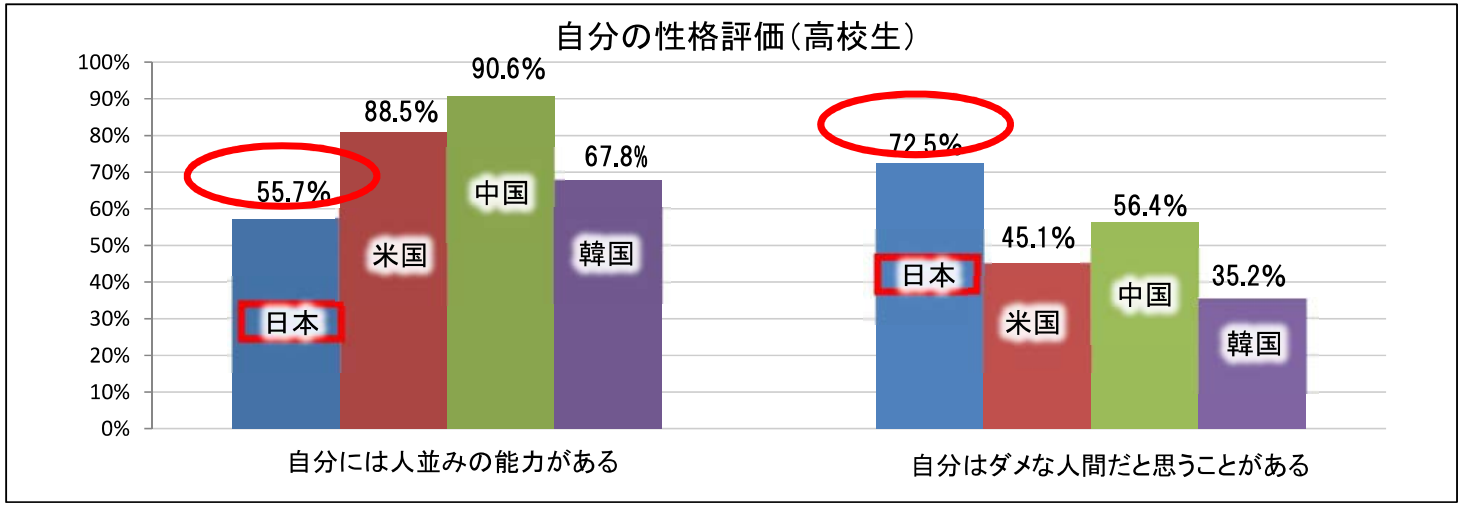
子どもの貧困の連鎖



http://www.meti.go.jp/committee/summary/eic0009/pdf/020_02_00.pdf

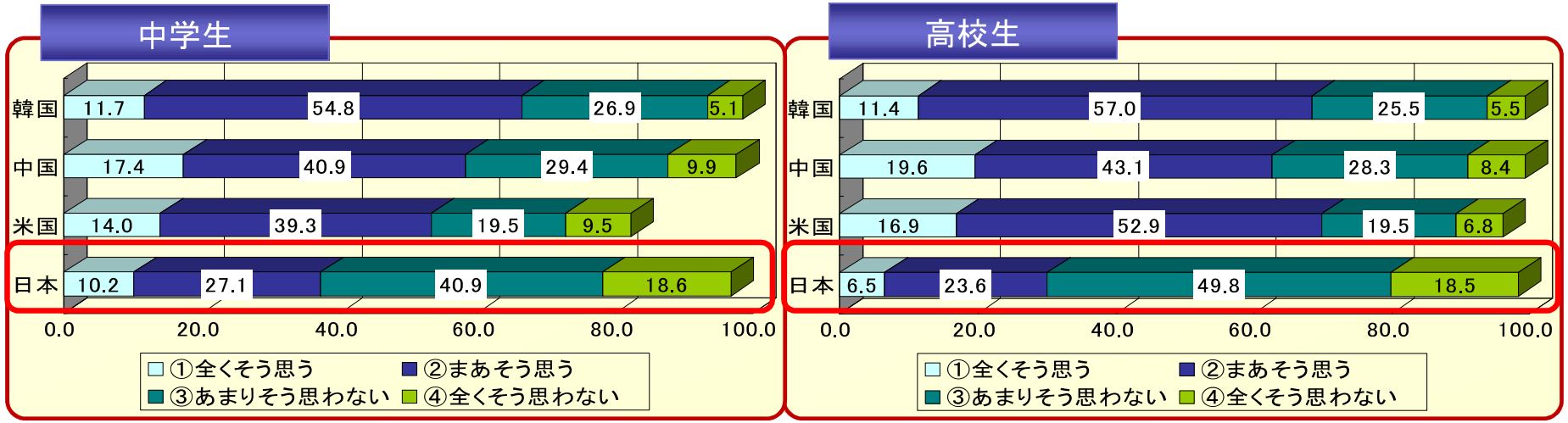
生徒の自己肯定感、社会参画に関する意識

◆米中韓の生徒に比べ、日本の生徒は、「自分には人並みの能力がある」という自尊心を持っている割合が低く、「自らの参加により社会現象が変えられるかもしれない」という意識も低い。



（出典）
（財）国立青少年教育振興機構
「高校生の生活と意識に関する調査報告書」（2015年8月）より
文部科学省作成

【問33－2】 私の参加により，変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない



（出典）（財）一ツ橋文芸教育振興協会，（財）日本青少年研究所「中学生・高校生の生活と意識 －日本・アメリカ・中国・韓国の比較－（2009年2月）」より文部科学省作成

虫歯の数は、生活習慣全般に依存するものであり、必ずしも単一の要因のみで決定するものではない。

虫歯の多い子供には見られる精神的な傾向は概して「意志が弱い」と判断される項目を多く含んでいると考えられる.すなわち，理論的な思考で正しい行動を選択するのではなく，むしろ本能的な要求に従う傾向が認められた。

この精神的な要素は，「甘いものを我慢出来ない」「虫歯の予防措置(歯磨き等)を怠る」などの行動に至りやすく，虫歯の増加を助長する重要な要素である。

本間 達・若松 秀俊「子供の生活習慣と虫歯の関連 」日本健康科学学会
Health Science vol.19 No.2 2003

食事中にテレビを見る子供に有意に虫歯の罹患率が高いことが示されている。

(テレビを)見る時間が長い子供ほど虫歯が多い

インスタント食品・レトルト食品などの咀嚼の少ない食品を多く食べる粗咀嚼習慣群の子供に不定愁訴が多く，精神面に不安定要素が見 られた 。

虫歯が多い子供ほど食事が不規則である傾向が認められた。

本間 達・若松 秀俊「子供の生活習慣と虫歯の関連 」日本健康科学学会
Health Science vol.19 No.2 2003

虫歯が多い子供ほど食事をおいしいと感じておらず，また料理を楽しんでいない傾向が認められた。さらに，食事を無理に食べており，食事時間を苦痛に感じる傾向が認められた。

子供の身体面の影響として虫歯が多い子供は歯を磨くと出血しやすい傾向が認められた。なお，　虫歯の数と風邪の頻度の間に有意差が認められた・・・・・・。

本間 達・若松 秀俊「子供の生活習慣と虫歯の関連 」日本健康科学学会
Health Science vol.19 No.2 2003

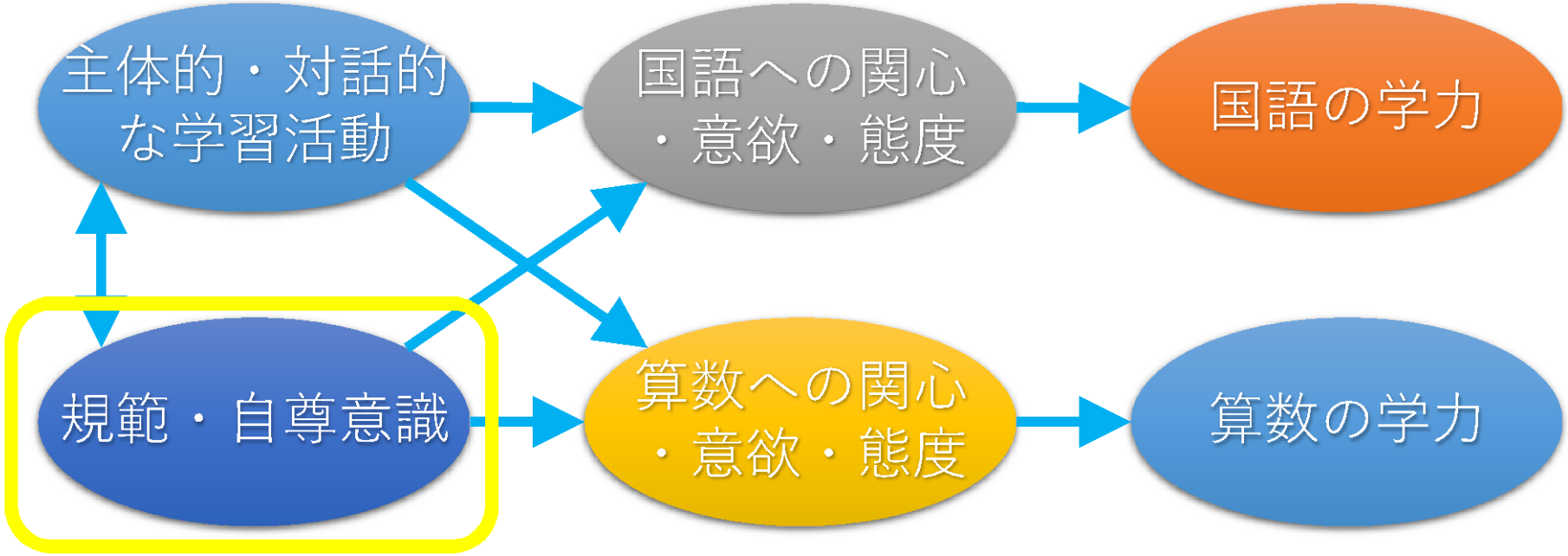
虫歯の数が多い子どもほど
以下のような傾向が認められた.

社会問題に関心がない.
努力しない.
くじけやすい.
落ち着きがない.
几帳面ではない.
相手の気持ちを考えない.
冷静な判断が出来ない.
いやな夢を見ないことが少ない.
誠実でない.
不平不満がつのることが多い.
自分勝手なところがある.
けんかっ早いところがある.

本間 達・若松 秀俊「子供の生活習慣と虫歯の関連 」日本健康科学学会
Health Science vol.19 No.2 2003

B1　全国学力・学習状況調査データの再分1

結果のまとめ



岐阜市教育公表会
吉澤寛之(岐阜大学准教授)による
全国学力テストの学習状況調査分析の結果

埼玉県新学力調査：自己肯定感と学力は関係する

平成２９年度埼玉県学力・学習状況調査データ活用事業における分析結果（概要）

２　主体的･対話的で深い学びは、社会経済的に課題のある可能性がある
中2･中3の子供の学力向上に、より効果的

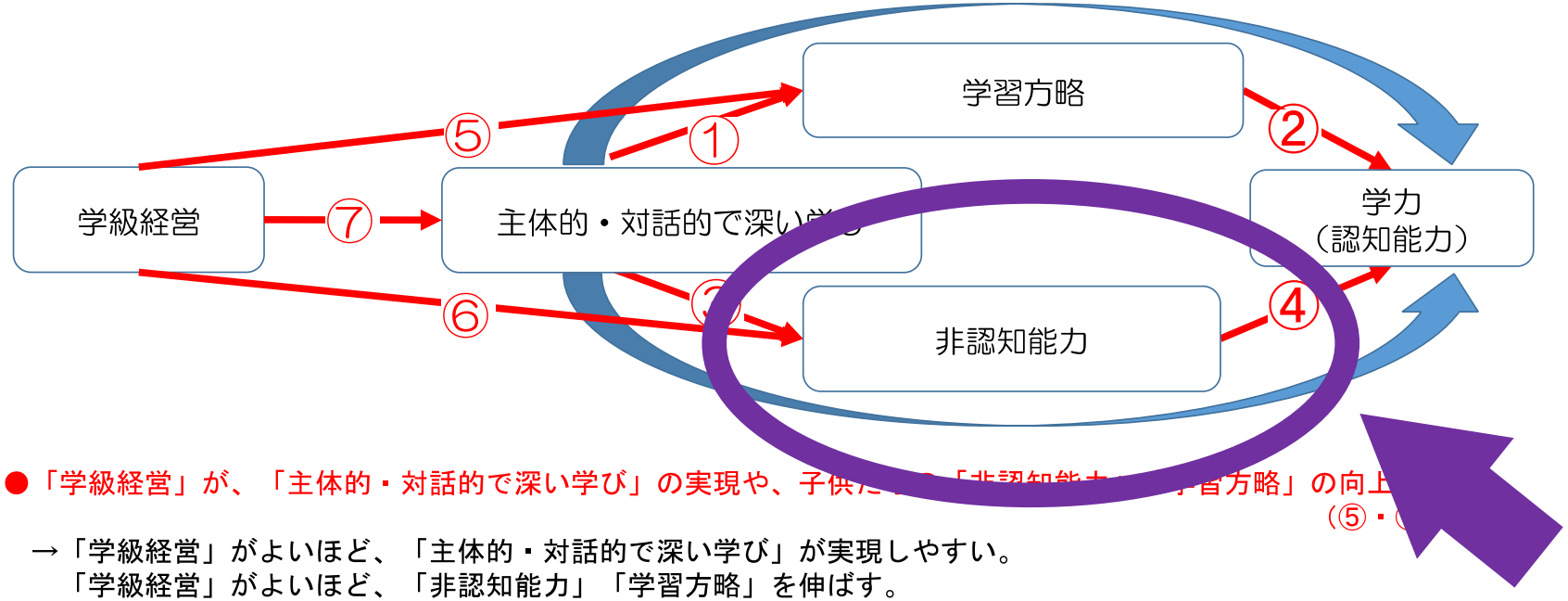
	国語						算数･数学			
	小5		中1		中3		小6		中2	
	通塾あり	通塾なし	通塾あり	通塾なし	通塾あり	通塾なし	通塾あり	通塾なし	通塾あり	通塾なし
AL（国語）	0.014***	0.014***	0.002	0.002	0.005*	0.018***				
AL（算数･数学）							0.009**	0.012***	0.005**	0.013***

・主体的・対話的で深い学び（ＡＬ）が子供たちの学力に与える影響について、通塾のありなしに分けて分析
・中学校１年生までの子供の学力に対するＡＬの影響は、通塾のありなしで大きな差は出ていないが、
中学校２・３年年生の子供の学力に対するＡＬの影響は、通塾している子より、通塾していない子への影響が大きい

埼玉県新学力調査報告概要

平成２９年度埼玉県学力・学習状況調査データ活用事業における分析結果（概要）

１「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて、「学級経営」が、子供の「非認知能力」「学習方略」を向上させ、子供の学力向上につながる



●「学級経営」が、「主体的・対話的で深い学び」の実現や、子供た[illegible]「非認知能力[illegible]習方略」の向上[illegible]
（⑤・[illegible]

→「学級経営」がよいほど、「主体的・対話的で深い学び」が実現しやすい。
「学級経営」がよいほど、「非認知能力」「学習方略」を伸ばす。

●主体的･対話的で深い学びは、子供たちの学習方略の改善や非認知能力の向上を通じて、学力を向上させる（①～④）。
※昨年度の分析結果（①～④）は、平成２９年度の調査結果を加えて分析しても同様のことが言える。

＜参考＞
「非認知能力」・・・例えば「自分の感情をコントロールして行動できる」等の力
「学習方略」　・・・例えば「計画的に学習する」等の学習方法や態度